

令和3年度東京都立三田高等学校 学校経営報告

Have Wings And Fly High! - 教養・探究・立志そして世界へ -

知的探究イノベータ推進事業支援

目指す学校<教養・探究・立志そして世界へ>

(1) 学校の教育目標＝教養人・リーダー・開拓者の育成	(2) 目指す生徒像＝自律・自学・チーム三田の力で高い志の進路実現	(3) 学校の教育目標を達成するための基本方針
ア 幅広くしなやかな知性と潤い豊かな感性を持つ教養人 イ 自主・創造の意欲と忍耐力・協調性との調和のとれた高い徳性を持つリーダー ウ 自己を厳しく律し常に進取の気概を持って社会貢献できる開拓者	ア 品位ある生活態度と社会性を備えた生徒(自律) イ 明確な目的意識をもって自ら学業に励む生徒(自学) ウ 特別活動を通して学校への帰属意識を高め、進んで切磋琢磨する人間関係を築く生徒(チーム力)	ア 問題・課題の発見から解決に到る主体的な学びを通し、個性・独創性の発現につながる質の高い学力を育む。 イ 体験活動、集団活動を通して、自主・自律の心、集団や社会の一員として自覚、社会貢献の精神を育む。 ウ キャリア教育を通して自己：：理解を促し、チャレンジ精神や進路実現に必要な資質能力を育む。 エ 国際理解教育を推進するとともにわが国の伝統・文化に対する理解を促し、真の国際人・教養人を育成する。

組織	●成果と課題		○次年度へ向けて		
			A：大いに達成 B：概ね達成 C：達成できなかった		
中期的目標と方策	(1) 「主体的な学び」の構築(学習指導)	数値目標	○学校評価アンケート「学習指導の満足」の生徒肯定評価85% 結果：88%であった。		B
		コメント	●生徒一人1台端末の活用やICT教育は推進できたが、「主体的・対話的で深い学び」の構築には至っていない。 ●指導と評価の一体化に向けた準備はできたが、ルーブリック評価を活用した指導法を推進する必要がある。 ○生徒同士が教え合い、学び合う主体的な授業形態の実践を組織的に実施する。 ○ルーブリックを効果的に活用して、適正な観点別評価を実施する。 ○生徒一人1台端末を活用した実践を増やし、創造的な学びの構築を図る。		
	(2) 自律・自学・チーム力による高い志の進路実現(生徒指導・進路指導)	数値目標	○学校評価アンケート「自ら学習」の生徒肯定評価80% 結果：64%であった。		B
		コメント	●第3学年の自学自習の質は保てたが、第1、2学年の自宅学習の質の向上と時間を増加させる必要がある。 ●組織的な指導はできているが、キャリア教育を充実させ、早い段階から目的意識をもって主体的に学ぶ態度を育成する必要がある。 ●コロナ禍の制約が多い中でも生徒主体に行事を運営する体制の維持できたが、SDGsに関する取組など生徒が発案した新たな取組の実践する必要がある。 ○大学・関連機関主催の校外活動への参加を推奨し、早い段階から視野を広げ、高い志を培う機会を与える。 ○生徒会、学校行事、部活動等を、より生徒主体の活動としていき、思考を深めさせる。		
	(3) 戦略的な広報活動の展開	数値目標	○応募倍率2倍の維持 ○ホームページの更新の増加 結果：2.07倍であった。		B
		コメント	●感染症対策を講じながらの学校説明会等を実施や、オンライン説明会を開催したが、対面での実施を希望する中学生やその保護者が多数いた。開催方法を工夫する必要がある。 ●生徒作成のPVを公開し、本校のよさを発信できた。 ○来年度も人数制限が必要であるという前提で学校説明会を実施する。 ○今年度リニューアルされたHPにより在校生の活動をより効果的に伝える。		
	(4) 信頼に基づく安心・安全な学校環境	数値目標	○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% ○サービス事故ゼロの維持 結果：95%であった。サービス事故0を維持。		B
		コメント	●感染症対策の充実を図ったが、行事の中止や実施形態変更等の対応に対する生徒の心情に配慮し、心のケアを充実していく。 ●工夫した避難訓練等を実施できたが、防災教育の更なる推進を図る必要がある。 ○体罰根絶、いじめの未然防止、サービス事故ゼロ等に向けて、毎月、徹底を図る。 ○会議の時間短縮やICTの効果的な活用により、ライフ・ワーク・バランスのある職務に取り組む。		
今年度の取組	各教科	数値目標	○学校評価アンケート「学習指導の満足」の生徒肯定評価85% 結果：88%であった。		B
		コメント	●ハイブリット型の授業を展開できたが、オンラインで授業に参加している生徒の理解度等を把握することが困難であった。 ●生徒一人1台端末を活用した授業を展開できたが、ペア・ワークやグループ・ワークを十分に行うことが困難であった。 ○登校できない生徒への学びの機会を保障する。また、感染症対策を講じ、対面授業の充実を図る。 ○一人1台端末、Microsoft Teams等を活用した授業を実践する。 ○授業での学びあいの時間を確保する。また、主体的で協働的な学びを実践する。		
	各学年	数値目標	○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% 結果：95%であった。		B
		コメント	●求める生徒像で、生徒に求める資質・能力は伝えられているが、本校の指導方針等を中学生に伝わる表現を検討する必要がある。 ●生徒が安心して学校生活を送れているが、個別の進路希望に対応していくことが必要になる。 ○学期に1回程度面談を設定し、進路実現に向けたきめ細かい指導を継続する。 ○進路指導の全体計画に基づき、組織的な進路指導を継続する。		
教務部・教育情報部	「高い志の進路希望」の実現を図る特色ある教育課程を管理する。	数値目標	○入学選抜業務に関する事故ゼロ ○「新学習指導要領実施までのスケジュール」の遂行 結果：新教育課程もでき、スケジュール通り進められた。		B
		コメント	●入学選抜業務、事故ゼロを目指して進行管理を行うことはできたが、業務の効率化を図る必要がある。 ●共通認識の基、新学習指導要領に実施に向けた準備ができたが、観点別学習状況の評価の具体的な手順について確認する必要がある。 ○反省を活かした入試選抜業務計画と、複数名による複数回の点検体制を構築する。 ○育成すべき資質・能力のための指導計画と観点別学習状況の評価を一致させ、説明責任が果たせるサイクルを構築する。		
生活指導部	学校生活全体を通して、集団や社会の一員として、自律・自立した生徒の育成を図る。	数値目標	○学校評価アンケート「学校行事」の生徒肯定評価85% ○遅刻の前年度比の減少 結果：87%であった。 感染症による出席停止等が多く、比較はできないが、減少したのは事実である。		B
		コメント	●生徒が主体となり、感染症対策を講じた学校行事は実施できたが、行事の充実には至っていない。 ○教員間のイニシアティブをより一層高めて生徒指導に丸となって取り組む。		

保健部	生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。	数値目標	○5月中旬までに1年生入学時全員面接終了 ○生徒理解のための研修開催（年2回以上） 結果：1年生の全員面接は実施できた。SCとの連携もスムーズであった。 生徒理解のための研修会は感染症の影響で実施できなかった。	B
		コメント	●第1学年の入学時全員面接はスムーズに実施できたが、その結果を早い時期に全教職員で共有する必要がある。 ●定期的にSCとの情報共有、特別支援教育に関する委員会を開催することはできたが、生徒理解のための研修会を全ては実施できなかった。 ○SC、専門医を活用し、生徒理解に努める。	
進路指導部	教養人の育成を目指すことにより、「高い志の進路実現」を促す。	数値目標	○進学実績の維持（ ）は浪人も含めた数値 結果：	B
		コメント	●進路指導部と学年が連携した進路指導を充実することができたが、感染症対策を講じ、対面での指導を充実する必要がある。 ●対面指導を行い、弱気にならない指導を充実できたが、生徒の不安感を払拭しきれなかった。 ○共通テスト対策、希望を貫く進路指導を実施する。 ○感染症対策の徹底と、生徒が不安に陥らぬよう臨機応変に対応する。	
国際教育部	本校の特色である国際理解教育の推進によって、生徒の幅広い「高い志の進路実現」につなげる。	数値目標	○学校評価アンケート「世界に向けて視野を広げる教育」の生徒肯定評価80% 結果：87%であった。	B
		コメント	●感染症対策を講じ、計画を変更しながら国際交流行事を実施できたが、オンライン等を活用した行事の実施を検討していく必要がある。 ○行事が再開される中で、普段の授業との有機的な連携が重要になるが、2年間のブランクを克服し、体制をもう一度作り直していくことが必要だろう。	
庶務部	地域に開かれた学校作りと学校環境の整備を推進する。	数値目標	○校内説明会参加者数延べ5000人 ○応募倍率2倍の維持 結果：人数制限により2000人であった。 応募倍率は2.0倍であった。	B
		コメント	●説明会の回数の増加、生徒会による個別相談の充実で、参加者から好評であったが、更なる質の向上が求められる。 ○リニューアルしたウェブサイトによって、情報発信をどのように充実させていくかが課題である。	
経営企画室	学校経営へ積極的に参画し、円滑な教育活動を支援する。	数値目標	○「ガイドラインステップ3」まで達成 ○予算執行におけるセンター執行率60% 結果：センター執行率 91.3% であった。	B
		コメント	●増改修の機会を活用して維持・修繕を行うことができたが、生徒・教職員の安全を確保する環境整備が課題である。 ●自律経営推進予算の有効活用と一般需要費のセンター執行率の向上を図ることができたが、費用対効果や優先順位を考慮した予算執行と時期を提案していく必要がある。 ○給排水衛生設備、とりわけトイレ等の不具合・不良個所についての修繕や、教室等の鍵等安全にかかわる設備の計画的な修繕に取り組む。 ○自律経営推進予算と推進校予算を有効活用し、オンデマンド授業や探究学習・国際理解教育等に対する支援する。予算のセンター執行率を向上させ、効率的な予算執行に取り組む。	